

# 事例発表 「待てない方の対応」

社会福祉法人 同愛会  
あすなろ作業所  
支援員 吉田 孝平

## あすなろ作業所

事業の名称	あすなろ作業所
事業の種類	第二種社会福祉事業
事業種別	指定生活介護事業所・指定就労継続支援B型事業所
所在地	〒168-0062 東京都杉並区方南1-3-4（合同庁舎1、2階） 〒168-0063 東京都杉並区和泉1-32-6（マングローブ）
TEL / FAX	TEL 03-3322-1020 FAX 03-3328-0625 TEL 03-6379-1020（ぽぷら） TEL 03-6379-2563 FAX 03-6379-2573（マングローブ）
URL / E-mail	URL hyuman.com / E-mail asunaro06@hyuman.com
設置者・運営者	社会福祉法人同愛会
認可年月日	平成16年4月1日
事業開始年月日	平成16年4月1日 新法移行平成21年4月1日
定員	80名（生活介護：50名 就労継続B型：30名）
サービス管理責任者	生活介護：1名 就労継続B型：1名
敷地面積	2,847.33㎡
延べ床面積	1階949.52㎡、2階454.92㎡
土地家屋所有関係	杉並区所有
主な実施地域	杉並区・世田谷区・渋谷区



# あすなろ作業所 利用者状況

(平成30年4月)



事業名	定員	現員	男	女
生活介護合計	50	50	35	15
生活介護（オリーブ）	22	28	18	10
生活介護（マングローブ）	8	7	5	2
生活介護（ほぷら）	20	15	12	3
就労継続B型	30	31	16	15
合計	80	81	50	31

居住地別人員

単位：人

	杉並区内	杉並区外	合計
人数	72	9	81

## あすなろ作業所の方針

### 「地域で輝いて生きるために」

どんなに重い障害があっても

「働く」「役割」「地域社会との関わり」

を通して、利用者の笑顔が輝き地域で暮らし続けることを実現させ、利用者が“幸せ”になる『よりどころ』のあすなろ作業所を目指しています。



# あすなろ（就労継続B型 定員30名）

## ○事業内容

### 生産活動の提供

就労に必要な知識・能力向上のためのプログラム（カフェ業務）  
その他の支援事業

## ○特徴

### 受注作業、自主生産（製菓・手工芸）

情報提供プログラム

より豊かな人生を送るための支援



# オリーブ（生活介護 定員22名）

## ○事業内容

- ・ **健康面、身辺面、心理面を**  
きめ細かにおこなう生活上の支援
- ・ 生活を豊かにする日中活動の提供  
（創作、運動、外出、プール）
- ・ 個のニーズに応じた**充実感や達成感を  
得られるような作業提供**

## ○特徴

- ・ 個別の環境づくり
- ・ 作業提供方法の工夫、環境音楽
- ・ 外出・音楽・プールプログラム、運動会の実施



# マングローブ（分場：生活介護 定員8名）

## ○事業内容

小集団による地域交流を中心としたプログラム提供  
運動プログラム（体操や近隣公園でのウォーキング）  
外出プログラム  
リラックスプログラム

## ○特徴

エコ活動や喫茶業務等を通じての地域交流  
体力維持、向上を図る体操やウォーキングの実施  
様々な社会体験を図る外出プログラム  
体の緊張をほぐす時間設定



# ぽぷら（生活介護 定員20名）

## ○事業内容

### ・平成26年9月

生活介護事業の事業拡大として、**あすなろ作業所2階に開設。**

- ・個別活動（機能訓練や生産活動等）、グループ活動に取組み、ウォーキングを通して健康維持・促進を図る。
- ・個々に役割（エプロン回収・洗濯・配膳等）を担い、責任感や達成感を持ち自信に繋がるよう支援する。



## ○特徴

- ・**杉並区内の重度知的障害者を対象とした施設。**
- ・送迎を保証。（ぽぷら号 杉並交通業務委託）





# 事例の概要

対象者のプロフィール	
年齢	42歳
性別	女性
診断	自閉症
療育手帳	2度
障害程度区分	6
ABC-J	30点
強度行動障害判定表	16点
その他	
行動面の問題	大きな声を出す⇒自傷⇒他傷

## 事前評価 (スキャタープロット)

[illegible]

# 事前評価（前兆となる行動の分析）

A: 事前

何もすることがない

B: 気になる行動

大きな声を出す

C: 結果

職員が声をかける

何もすることがない

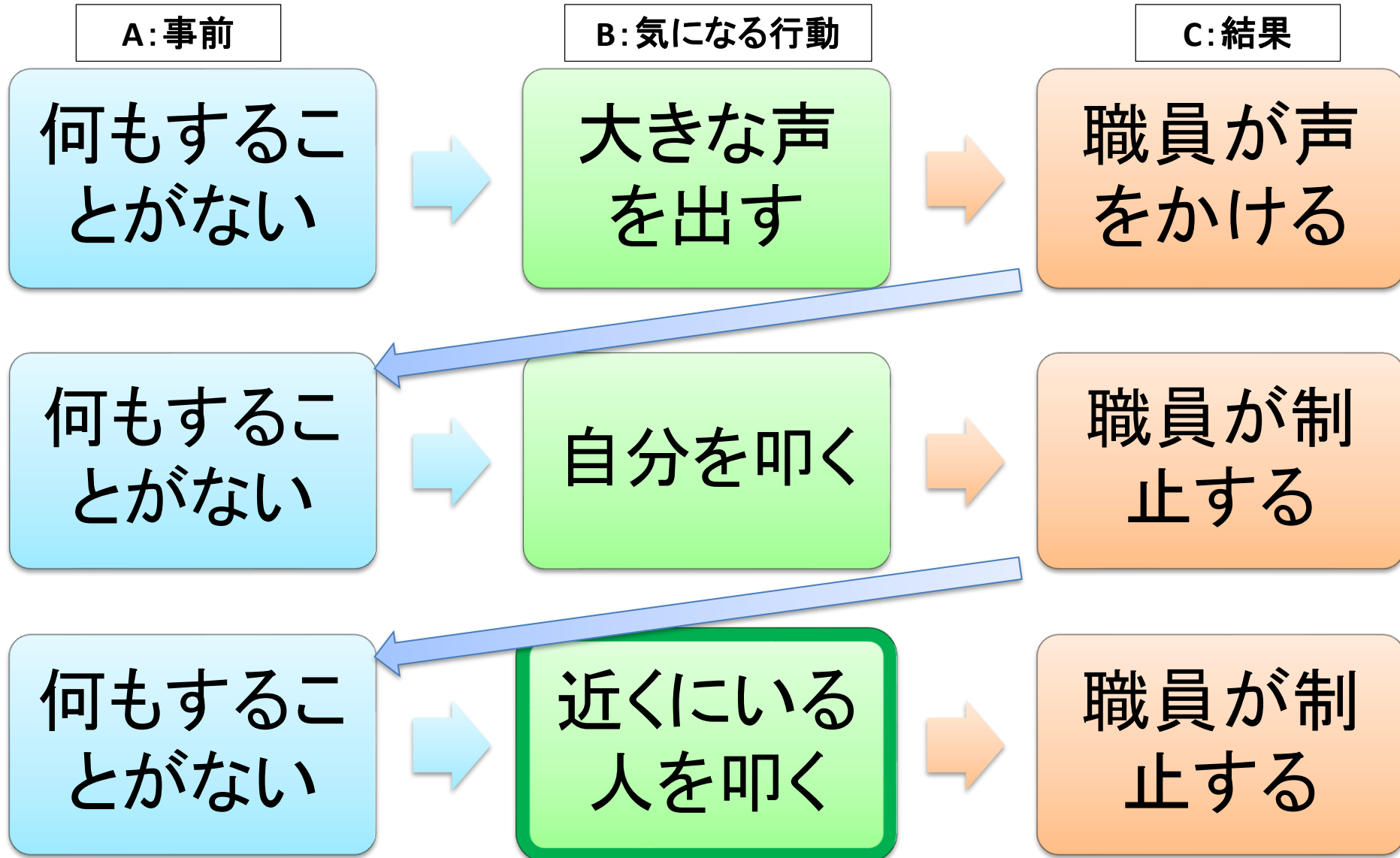
自分を叩く

職員が制止する

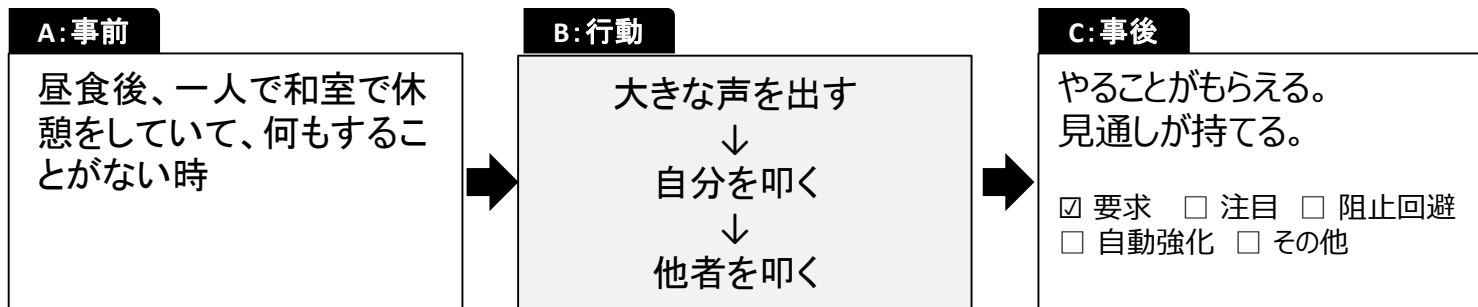
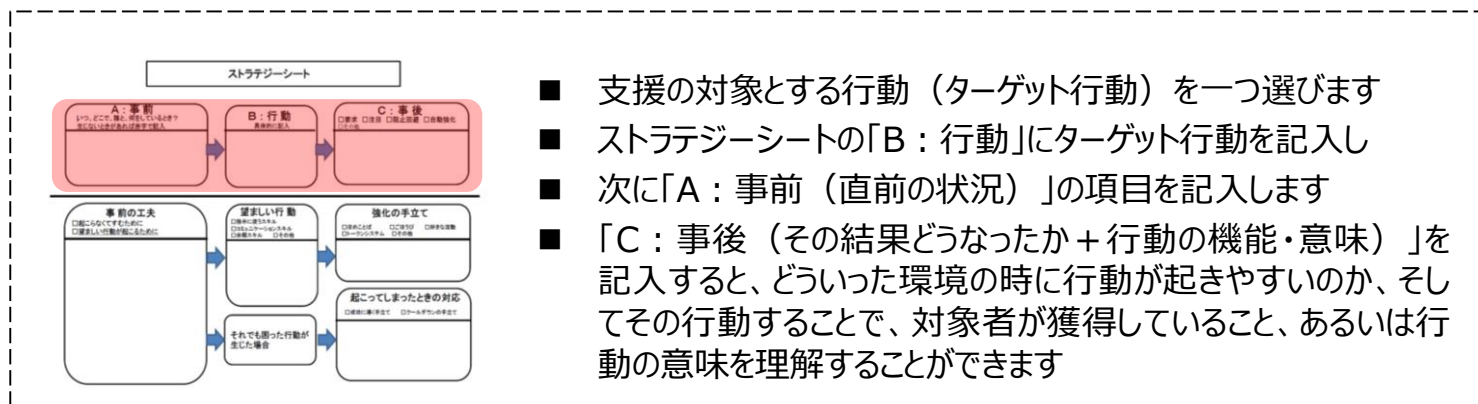
何もすることがない

近くにいる人を叩く

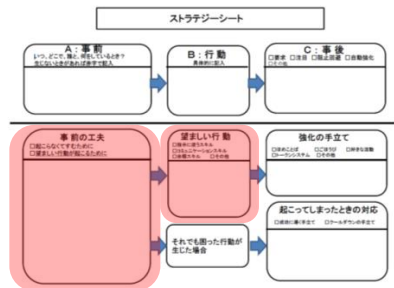
職員が制止する



# 事前評価 | 前兆となる行動の分析



## 事前の対応と工夫 | チームで支援



- 行動が起きなくてもよい環境を考えます
- また、その時の「望ましい行動」を考えます
- そして、どのような環境（物や人、グッズなど）が必要か？また支援チームで統一した支援が必須であることから、無理のない現実的な方法を検討します
- 検討・実施にあたっては、チーム内で議論し共有します

【望ましい行動】 ☒ 指示に従うスキル ☐ コミュニケーションスキル ☐ 余暇スキル ☐ その他

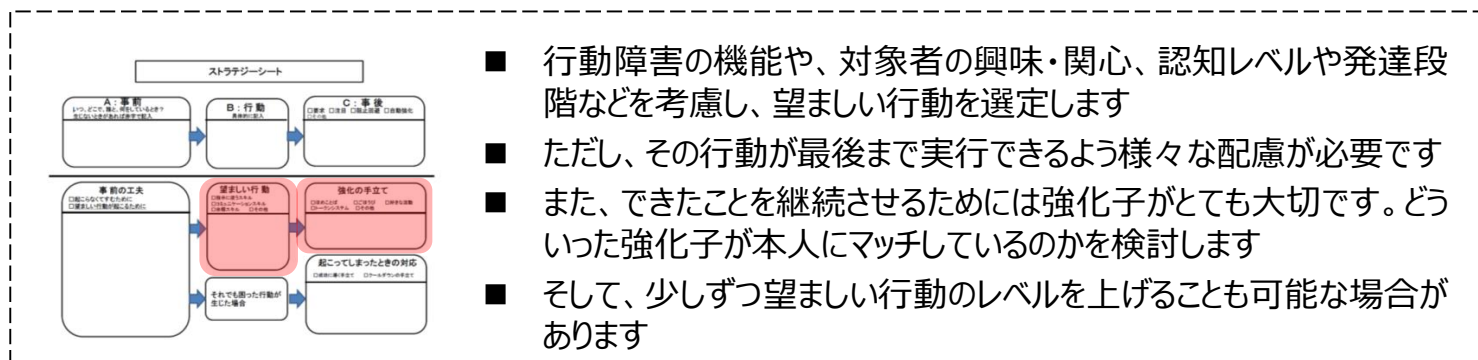
- 見通しを持って活動ができる。

【事前の対応と工夫】 ☐ 起こらなくてすむために ☒ 望ましい行動が起こるために

- 昼休憩時間を短くし活動を提供する。
- 昼休憩時間の終わりを本人にわかりやすくする。
- 次の活動を準備し、休憩が終わったら次の活動を本人にわかりやすく提示する。
- 活動中に同じ空間で休憩を入れる。
- 個室空間を作り、そこで休憩する。
- 休憩時間をなくす。



# 望ましい行動の教示 | 強化の手立て

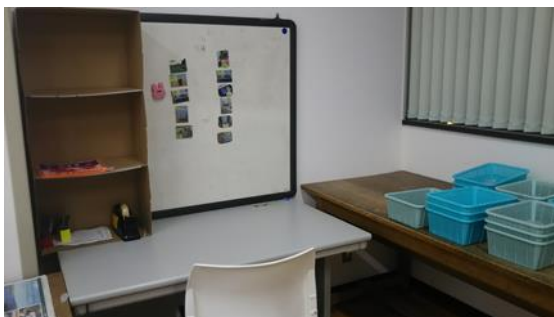


【望ましい行動】 ☒ 指示に従うスキル ☐ コミュニケーションスキル ☐ 余暇スキル ☐ その他

■ 見通しを持って活動ができる。

【強化の手立て】 ☒ ほめことば ☐ ごほうび ☐ 好きな活動 ☐ トークンシステム ☐ その他

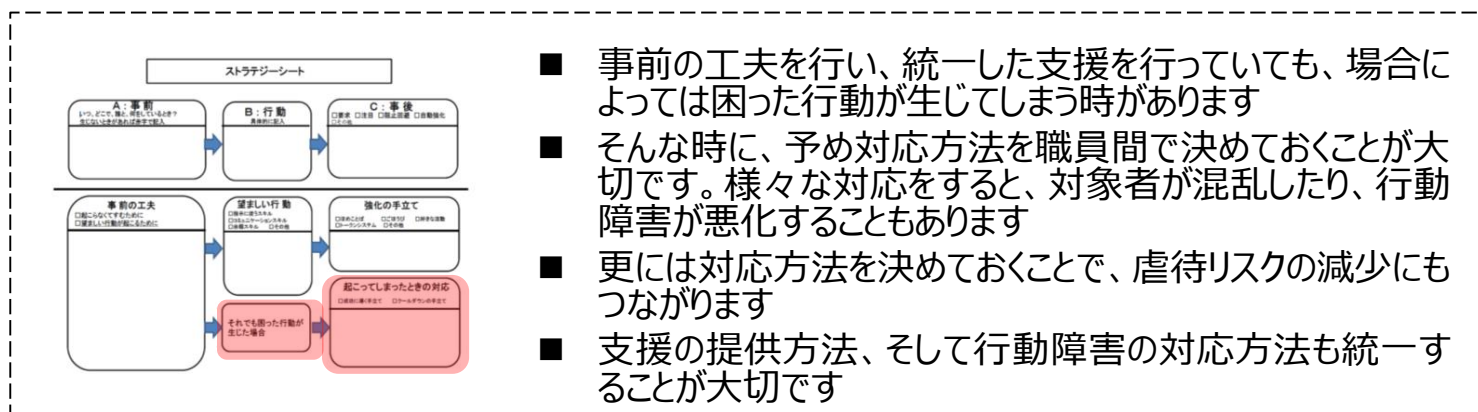
■ 活動ができれば拍手をして褒める。



# 望ましい行動の教示 | 強化の手立て

- 望ましい行動として、「見通しを持って活動ができる」としました。
- 休憩時間は一番見通しが持ちづらく、大きな声が出てしまう記録が取れ、休憩時間にスポットを当てて、対応してみました。
- 対応としては、活動種を増やし、空き時間を少なくすること。
- 次の活動を事前に準備し、視覚的に伝える。
- 出来た時は拍手をして褒める。

# それでも困った行動が生じた場合



【起こってしまったときの対応】    ☐ 成功に導く手立て    ☒ クールダウンの手立て

- 和室（決まった場所）に誘導する。

専門研修では、このストラテジーシートを使って、何度も支援内容を修正していきます。簡単には、諦めません！！





# それでも困った行動が生じた場合

- 職員が同じ対応をすることによって、問題行動は減りましたが、出てしまった際は、クールダウンの場所を決めて、そこに誘導することも統一して対応しました。
- 現場職員で会議をして、誰でも同じ対応をすることによって、パニックになっても落ち着いて対応することができました。

## 実施した結果

[illegible]

# 結果の前に | チームで支援を行うために



- 強度行動障がい児・者支援には、統一した支援が欠かせません（というか、統一した支援ができない事業所では、支援の効果は期待できません）
- また支援の結果をみるためには、記録が必須です。支援の実施と記録の徹底。この2つを事業所内で実施することは、意外と難しい現実があります
- 支援方法の共有と、記録方法の周知、そしてモチベーションを維持して取り組むためには、様々な工夫と配慮が必要です

## 【情報の共有や周知徹底を行うための工夫】

ミーティング（場面）： 当日出勤している職員が参加。

ミーティング（頻度）： 毎日夕礼後に10分時間をもらい、記録の確認をした。

工夫したこと： 記録は毎日夕礼後に、その日の記録を確認し共有した。  
問題となる行動が見られた場合は、すぐに職員間で共有し、なぜ行動が見られたかを確認し、対応方法を検討した。

## 【記録の徹底を行うための工夫】

- 記録用紙は手書きにして、行動を番号かすることで記録内容のズレはなかった。
- 記録用紙は事務室入り口に設置し、誰でも記入できるようにした。
- 最初の2週間の行動観察を記録することは時間を要したが、他の職員の協力もあり、徐々に記録する時間を絞ることによって、各職員の負担も軽減したと感じた。

# 考察 |

## うまくいった点

- 場面と時間を設定した事で、実施する職員にとっては負担が少なかった。
- 問題とされる行動に対して、機能を見立てた対応がうまく一致し、結果として記録用紙に反映される結果となり、職員も迷うことなく対応ができた。

## 課題となった点

- 3名の職員で記録を取ることで情報共有も可能だったが、今後、職員が増えていく中で、どのように共通理解を得るかが課題となった。
- 記録を取る中で、本人の行動が出る機能が変わってきたように感じ、今後の対応方法の課題となった。

# 現在の様子と課題 |

## 本人の行動

- お昼時間にスポットを当て、統一した対応をすることによって、その時間帯の 問題行動は減りましたが、その他の時間帯では、問題行動が出ていました。
- 各時間帯に支援方法をスライドさせて、各場面での行動を観察することを繰り返し、対応方法を検討していきました。
- それでもどの時間帯も同じような結果が出る訳ではなく、職員も変わることから、特に年度の始まりは 1 から出直すこともありました・・・。

## 課題となった点

- 本人は予定が気になる方で、その日の活動予定をカードで伝えていたが、最近は休み（土日）の予定と通所時の予定に迷いがあるようで、ご家庭との予定提示の違いが見つかりました。
- 職員体制が毎年同じではなく、新しい職員や関わる職員が増えることによって、情報共有の難しさを感じています・・・。



## 活動スペース |

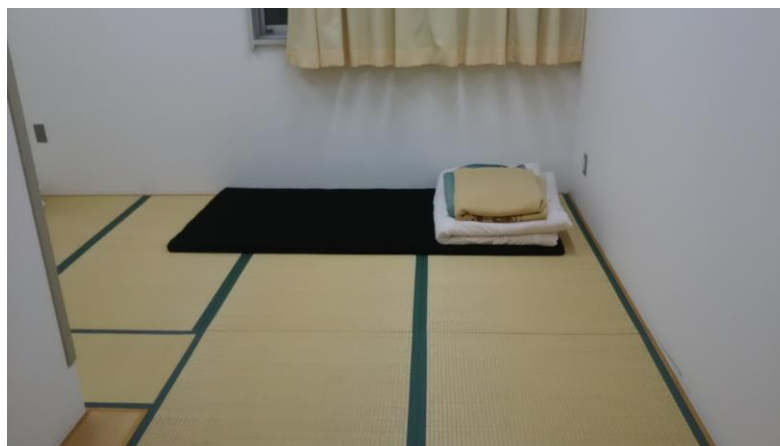
## 予定提示方法 |



## 自立課題 |



## クールダウンの場所 |



# 創作活動 |





# 感想 |

- 強度行動障害支援アドバンス研修を受講させて頂き、チームで対応を考え、記録を取り、同じ対応が実践でき、良い結果も出てきました。
- 今までは、その場で思いつきの対応を各職員が行い、結果もその時でしかない曖昧な物でした。
- 良い結果を元に、対象者の方への支援を検討していますが、まだまだ改善が必要で、問題とされる行動がなくなった訳ではありません。
- ご本人は勿論ですが、他の方、地域の方で困っている、支援が難しい方に、広いネットワークで強度行動障害の支援者が繋がっていければと思っています。

本日はありがとうございました。

